

どてらごや

瑞宝山 不動寺

平成25年11月

TEL 75-4862

平成25年8月からの不動寺行事

平成25年7月15日 月輪観の出張体験

副住職の辻和道さんと純令さんが名手宿本陣で月輪観の出張体験に招かれ、ガールスカウト那賀第10団の子どもたちに瞑想の体験を行いました。



月輪観や阿字観は不動寺の土寺小屋でも体験できるのですが、今回は医聖華岡青洲の奥様加恵さんの実家で地元では妹背家本陣とも呼ばれている休暇の屋敷で体験させてほしい

と言うことで、子どもたちに体験していただきました。

みんな初めて体験する瞑想に、「気持ち落ちついた」とか「お月様が心の中でだんだん大きくなってるのが分かった」などと感想を話し、次の機会には是非お寺で経験したいと話す子どもいて、出張瞑想体験は大好評でした。



平成25年7月27日 土寺小屋と護摩焚き



翌日が28日ということで、土寺小屋と一日早い護摩焚きを開催しました。



この日は法句経(ほくきょう) 愚闇品64の「よき師に終身学ばせて学ばざるあり匙の汁に浸って 風味(あじ)を知らざるに似たり」という句を勉強しました。

この意味は『人生において、よい先生に学び続けているのに、学んでいないことがあります。それは、汁椀の中に匙が浸っていながら、その汁の味を感じないように、私たちの周囲には多くの師とすべき現象や行いが繰り広げられているのに、それを自分の

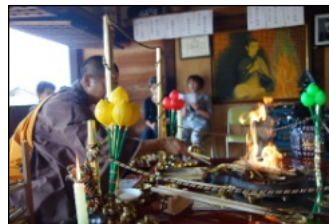
生き方に取り入れたり、よき学びとして生かそうとしない』ということです。

大石順教尼は17歳の時、義父に両手を切り落とされます(堀江6人斬り事件)。両手を無くしそれを見世物として柳家金語楼(6歳)とともに芝居巡業の途中、カナリアの親鳥が子鳥にくちばしでえさを与えるのをみて、口に筆を加えて絵を描くことを覚え、立派な画家になります。『口に筆とりて、書けよと教えたる鳥こそ、我の師にありけり』と、カナリアが自分の師だと『無手の法悦』で語っています。

この日の御弥津(おやつ)は桃コンポート入りゼリーでした。



平成25年9月28日 土寺小屋と護摩焚き



9月の第4土曜が28日だったので土寺小屋と護摩焚きを行いました。

7月に続いて法句経の勉強です。愚闇品63「わが愚かさを悲しむ人あり この人すでに患者にあらず 自らを知らずして賢しと称するは愚中の愚なり」。『自分は偉いと過信するものはむしろ愚か者だ』というのです。

周利槃特(チューラパンタカ)は、お釈迦さまに与えられた「三業に悪を作らず、諸々の有情を傷めず、正念に空を観ずれば 無益の苦しみは免るべし」という言葉が覚えられなかった。そこで「塵垢は除く」という言葉を書いた茗荷(みょうが<名札>)を首にかけて、毎日毎日掃除することによって阿羅漢という悟りを開いたそうです。

このことからミョウガ(茗荷)を食べれば物忘れをするという俗話が生まれました。

御弥津は梅ゼリーでした。



平成25年11月13日 難病患者の作業所職員研修



和歌山県でただ1カ所の難病患者や中途障がい者の小規模作業所フラットの職員研修が不動寺で開催されました。

住職は開所当初から関わりこの作業所の理事でもあります。

現在、約20名の利用者を6名の職員が指導しています。利用者の作業環境を充実させることや職員のスキルアップのための有意義な研修がお寺で初めて行われました。